

2021年度 第10回運営委員会議事録

- 日時 : 2022年3月15日(火) 14:00~16:00
- 場所 : サプリ村野 環境保全研修室
- 出席者 : 市山、阪口、末岡、藤原、丸井、宮村、 <事務局>三橋
<オブザーバー>インターン生3名
- 欠席者 : 伊丹、大倉(枚方市)、豊高、
- 議長 : 宮村 ■議事録作成 : 事務局
- 配布資料 : ・事務局報告 2-3月
・環境教育部会 3月度定例会報告
・自然エネルギー一部会打ち合わせ(第6回、第7回)

1. 報告事項

① 事務局報告

報告書の通り

- ・先日、情報コーナーの展示パネルの張り替え作業をインターン生中心に行った。
また、リユースコーナーの衣替えを会員有志と一緒にいった。
- ・インターン生の成果発表として、「温暖化が森林に与える影響」を聞いて持った。

② プロジェクトチーム・部会報告

◆地球温暖化防止対策推進チーム報告

- ・エコ宣言の報告書の作成に向け、たたき台をもとに検討した。

◆環境教育部会

- ・2022年度環境出前授業プログラム冊子を作成中。4月初めに全小学校へ郵送予定
- ・出前授業を行った小学校から子どもたちの感想をまとめた冊子が送られてきて、大変嬉しくやりがいを感じた。お礼の電話をしたところ、準備に手間のかかる授業は普段中々できないので大変ありがたかったとの言葉をいただいた。
- ・4月に部会交流会として野外でバーベキューを行う。

◆公共交通部会

- ・新年度事業について話し合った。
- ・新年度も今年と同じようなスタイルでの「スタンプラリー」を計画している。今年度の参加者の声を聞いたところとても楽しんで頂けたようだ。また、今年度スタンプポイントを引き受けて下さったところの反応もとてもよかったので、またそのように喜んで引き受けてくださるところを探したい。
- ・啓発イベント企画としては、段ボール工作のスペシャリストが枚方におられるということで、電車やバスを作るようなワークショップを検討している。場所は、新しくできた総合文化芸術センターを検討している。

<主な意見>

- ・「段ボール工作」だけで終わると、公共交通部会の取り組みとしての意味が感じられない。

子どもたちが工作をしている間、保護者には環境と公共交通利用の話をしてはどうか。

◆自然エネルギー部会

- ・新年度の事業計画として、講演会、勉強会、見学会の3つの開催を予定している。さらに、今年度の事業を踏まえ、行政に対しての提言書を作成し、提出を計画している。

2. 協議事項

① 総会開催について

コロナの影響で、2年間集まっていた開催ができていない状況を踏まえ、2022年はどのような形式で開催するかを協議した。

<主な意見>

- ・状況の読めない中での通常開催はやはり難しい。
- ・昨年同様、少人数の開催と書面議決でいいのではないか。
- ・オンライン参加もありにしてはどうか。
- ・オンラインでは議決が難しいのでは。

<結論>

昨年同様、少人数での開催とし、理事や要人などは来賓として招待する。加えて、ZOOMによるライブ中継を行い、会員の方に見て頂けるようにする。

② 総会議案について

- ・収入は昨年並みであり、単年度収支は赤字予算を組んでいる。それらを踏まえ、次回運営委員会までに議案を送付するので、それぞれ検討してほしい。

③ 組織強化について

- ・会員数が少しずつ減少している一方、新しい会員も増えているという事もあり、会員数に大きな変動は見られない。しかし、中期計画にも掲げ、法人の存在意義を高めるためにも会員数を増やすことは重要だと考えるがどのようにすれば会員を拡大できるのか、ご意見をお聞きしたい。

<主な意見>

- ・スタッフのわかりやすい達成感が大切。
- ・部会以外の会員との交流がない。横のつながりの強化も大切
- ・部会に属さず活動していない人はどういう考えなのか
⇒実際活動していない方は、活動するのが難しい状況であることが多い。しかしながら、会員を継続することそのもので環境活動への想いを示している。
- ・会員交流会で結束力を強める。

<結論>

これと言って妙案はないが、とりあえず今年度は「交流」を深めることを目的に親睦会を企画し複数回実施することとした。

以上